

群 教 セ	G09 - 03
	平 17.228集

# 使用場面を意識して英語でコミュニケーション できる能力を育てる指導の工夫

－ 教科書の重要文を活用したダイアログの作成を通して －

特別研修員 会田 智史 （群馬県立富岡東高等学校）

## （研究の概要）

本研究は、教科書の重要文を活用したダイアログを作成する活動を通して、使用場面を意識して英語でコミュニケーションできる能力を育てることを目指したものである。教科書から重要な例文を取り上げ、文法を正確に理解して文構造を分析し、続いて例文の語句を改変して新たな文を作り、ダイアログの中心となる簡単な応答例を作成する。さらに応答例を生かして会話し、使用場面を意識してコミュニケーションできる能力を目指した。

**キーワード** 【英語 - 高 教科書 コミュニケーション ダイアログ 重要文】

## 主題設定の理由

英語を会話で自由に使えるようにすることは、旧来からの人々の願いでもあり、社会の要請でもある。そのため、学校における英語教育でも、コミュニケーション能力の育成が目標とされている。しかし、実際の授業では教科書の文意の理解や文法指導に多くの時間が割かれ、コミュニケーション能力の育成につながる活動が十分にできていないとは言えない状況にある。

本研究の対象となる生徒は、高校2年生の女子16名である。英語を話すことや聞くことに対しては興味を強くもち、1年次の授業でALTが訪れた時には、積極的に会話を試み、楽しもうとする姿勢が見られた。ただし、既習の英語表現を使えば、ある程度の会話が成立するのに、自分のものとして自由自在に使いこなせる段階に至っていないため、会話が途切れて困っている場面も見られた。

本研究で使用する英語の教科書は、発音・語彙・文章の内容把握など様々な学習項目があり、重要な例文学習は、文法的な内容を理解して覚えるといった展開になってしまう傾向がある。こうした文法理解を中心とした読解指導も重要であるが、英語の学習意欲や今後求められるコミュニケーション能力の育成には、それだけでは十分ではないと考える。

コミュニケーション能力を身に付けるため、英会話学校に行ったり、テレビ・ラジオの英会話講座を受講したりする生徒もいる。それらにおける、

実際に起こり得る場面を想定した会話学習は、学習する意欲付けにもなり、主体的に取り組むことにつながっているようである。そこで、教科書の学習内容や表現が生徒の発達段階を踏まえて上手く構成されている利点と、テレビ・ラジオの英会話講座のダイアログ練習がコミュニケーション能力の育成に有効である利点を生かし、学校での英語学習をより一層コミュニケーション能力の育成につながるようにしていきたいと考える。

具体的には、生徒がペアとなり、教科書の重要な例文を応用してダイアログを作成する活動を行う。まず、教科書の中からダイアログとして活用できそうな重要な例文を取り上げて文法を正確に理解し、表現の核となる部分と語句を改変できる部分とに構造を分析する。続いて、実際に例文の語句を様々に改変してたくさんの文を作り、それを使用してダイアログの中心となる簡単な応答例を作成する。さらに、その応答例を生かして会話をしながら、実生活での使用場面を意識したダイアログを作り上げる。こうした一連の活動を通して、教科書の重要文を実際の会話の中で活用することができるようになると考える。

以上のように、教科書の重要文を活用したダイアログを作成する活動を行えば、実生活での使用場面を意識してコミュニケーションすることができるようになると考え、本主題を設定した。

## 研究のねらい

実生活での使用場面を意識して英語でコミュニケーションできる能力を育成するために、教科書の重要文を活用したダイアログを作成する活動を取り入れることが有効であることを、授業実践を通して明らかにする。

## 研究の見通し

- 1 導入の過程において、教科書の中から、ダイアログとして活用できる重要な例文を取り上げ、その文法を正確に理解し、表現の核となる部分とそれ以外の部分とに構造を分析する活動を行えば、応用して多様な表現ができることに気付くであろう。
- 2 応用の過程において、分析した例文を様々に変えてたくさんの文を作り、さらにそれを使用して、ダイアログの中心となる簡単な応答例を作成する活動を行えば、例文をコミュニケーションの場面に活用する手がかりがつかめるであろう。
- 3 発展の過程において、作成した応答例を生かしながら会話をし、ダイアログをより自然な展開に膨らませる活動を行えば、使用場面を意識してコミュニケーションすることができるようになるであろう。

## 研究の内容と方法

### 1 研究の内容

- (1) 使用場面を意識して英語でコミュニケーションできる能力について

「使用場面」として、具体的に下記のようなものを想定する。

電話、旅行、買い物、パーティー、家庭、学校、レストラン、病院、インタビュー、手紙、電子メールなどの、個人的なコミュニケーションの場面

ラジオ、テレビ、映画などの、多くの人を対象としたコミュニケーションの場面

使用場面を意識して英語でコミュニケーションできる能力とは、このような場面で実際に使用することを意識して、平易さや実用性を併せもった

英文を用いてダイアログを作成することができ、さらに、ダイアログの英文の中に自分の考えや思いを入れ、表情やジェスチャーを工夫しながら相手に伝えることができることである。

なお、本研究で目指す具体的な生徒像は以下のとおりである。

教科書の中から、ダイアログとして活用できる重要な例文を取り上げ、その文法を正確に理解し、構造を分析することにより、例文をただ暗記するだけでなく、応用して多様な表現ができることに気付く生徒。

分析した例文を様々に変えてたくさんの文を作り、さらにそれを使用して、ダイアログの中心となる簡単な応答例を作成することにより、例文をコミュニケーションの場面に活用しようとする生徒。

応答例を生かしながら会話をし、それを通じて使用場面を意識したダイアログを作成することにより、教科書の重要文を活用していき、実生活の会話でも応用しようとする生徒。

- (2) 教科書の重要文を活用したダイアログの作成について

「教科書の重要文」とは、題材の中にある、新出の文法事項を含んだ重要な例文として取り上げられている英文を指す。その英文を実生活での会話で使用することを想定して、文法的に核となる部分を理解しつつ、部分的に改変して自分なりの英文を作り出して実際の会話に用いることができることを、「教科書の重要文を活用する」ととらえる。

「ダイアログ」とは、複数の人によって行われる会話とする。テレビ・ラジオの英会話講座のダイアログ練習は、使用場面を意識したダイアログを作成する活動のモデルであり、以下のような特徴を活用していきたい。

文法の核となる部分と、それ以外の部分とに、構造を分析しやすい英文を用いている点。

相手に質問する英文とそれに対して答える英文の組み合わせなど、複数の人物間の応答という形を多用している点。

使用場面が具体的に設定されている点。

話の展開に面白みをもたせている点。

このように、教科書の重要文を活用してダイアログを作成する活動を行えば、使用場面を意識したコミュニケーション能力を育てることができる。と考える。

## 2 研究の方法

研究の見通しに基づき、次のような方法で授業実践を行い、検証する。

### (1) 授業実践計画

時期	平成17年11月上旬～11月中旬	教科	外国語（英語）
対象	群馬県立富岡東高等学校 2年2・3組 習熟度別少人数 女子16名		
題材名	MILESTONE English Course Lesson 5 “Across the Australian Desert”	時間	8時間

### (2) 抽出生徒

A女	授業に対してときおり集中を欠く。英語でのコミュニケーションには興味があるが、既習の表現が定着していないため文章を作ることに苦労している。教科書から重要文を選び出し、文法構造を正しく分析できるよう支援することにより、表現の定着を図り、その表現の活用を試みる姿勢をもたせたい。
B女	授業に対して意欲的であり、文法事項の理解も早く定着も良い。積極的に文章を作ろうとするが、既習の表現を自在に使いこなせる段階には至っていない。教科書の重要文の有効な改変方法を理解できるよう支援し、既習の表現も活用させ、使用場面を意識したコミュニケーションへとつなげさせたい。

### (3) 検証計画

	検証の内容	検証の方法
見通し1	導入の過程において、教科書の中からダイアログとして活用できる重要な例文を取り上げ、例文の文法を正確に理解し、表現の核となる部分とそれ以外の部分とに構造を分析してワークシートにまとめる活動を行うことは、例文をただ暗記するだけでなく、応用して多様な表現ができることに気付くことに有効であったか。	観察 ワークシート 自己評価カード
見通し2	応用の過程において、分析した例文を様々に変えてたくさんの文を作り、さらにダイアログの中心となる簡単な応答例を作成してワークシートにまとめる活動を行うことは、例文をコミュニケーションの場面に活用する手がかりをつかむことに有効であったか。	観察 ワークシート 自己評価カード
見通し3	発展の過程において、作成した応答例を生かしながら会話をし、ダイアログをより自然な展開に膨らませてワークシートにまとめ、発表する活動を行うことは、実生活での使用場面を意識して英語でコミュニケーションできる能力を育てることに有効であったか。	観察 ワークシート 自己評価カード

## 研究の展開

### 1 題材の考察と目標

題材の考察	本題材は、ラクダや犬とともにオーストラリアの砂漠を横断した女性の記録が中心であるが、生徒がペアとなり、教科書の重要な例文を応用してダイアログを作成する活動を行う。まず、教科書の中から重要な例文を取り上げて文法を正確に理解し、構造を分析する。続いて、例文の語句を改変して文を作り、ダイアログの中心となる簡単な応答例を作成する。さらに、その応答例を自然な展開に膨らませて使用場面を意識したダイアログを作り上げる。これを通じて、教科書の重要文を応用し、使用場面を意識して英語でコミュニケーションできる能力を育てることができると考える。
目標	教科書の重要文を応用してダイアログを作成し、使用場面を意識してコミュニケーションする能力をはぐくみ、実生活の会話でもその表現を活用しようとする。

### 2 評価規準

	ア 関心・意欲・態度	イ 表現の能力	ウ 理解の能力	エ 知識・理解
聞くこと	(言語活動への取組) 相手を見て話を聞いたり、必要に応じてメモを取るなど、相手の話に関心をもっている。 (コミュニケーションの継続) 理解できないところがあっても、推測するなどして聞き続けている。		(正確な聞き取り) 聞いた内容について正しく理解することができる。 (適切な聞き取り) 聞いた内容について概要や要点を把握することができる。	(言語についての知識) 「聞くこと」に用いられている語句や、『仮定法』、『時と条件の副詞節』などの文法事項を知っている。 (文化についての理解) 人々のものの見方や考え方の違いについて理解している。
話すこと	(言語活動への取組) 自ら学んだ表現や進んで集めた情報などを使って話している。 (コミュニケーションの継続) うまく言えないところがあっても、別の語句や表現で言い換えたり、説明して伝えるなどの工夫をしている。	(正確な発話) 伝えたい情報や考えなどを正確に話すことができる。 (適切な発話) 相手の発話に対して適切に応答することができる。		(言語についての知識) 「話すこと」に用いられている語句や、『仮定法』、『時と条件の副詞節』などの文法事項を知っている。 (文化についての理解) 人々のものの見方や考え方の違いについて理解している。
読むこと	(言語活動への取組) 必要に応じて辞書などを活用している。 (コミュニケーションの継続) 理解できないところがある	(正確な音読) 正しいリズムやイントネーションなどを用いて、音読したり発表したりすることができる。 (適切な音読)	(正確な読み取り) 書かれた内容について正しく読み取ることができる。 (適切な読み取り) 読んだ内容について概要や要点を把握することができる	(言語についての知識) 「読むこと」に用いられている語句や、『仮定法』、『時と条件の副詞節』などの文法事項を知っている。 (文化についての理解)

	っても、推測するなどして読み続けている。	文章の意味などを考えて適切に音読したり発表したりすることができる。	る。	人々のものの見方や考え方の違いについて理解している。
書くこと	(言語活動への取組) 自ら学んだ表現や進んで集めた情報などを使って書いている。 (コミュニケーションの継続) 表現できないところがあっても知っている語句や表現を用いて書き続けている。	(正確な筆記) 伝えたい情報や考えなどを正確に書くことができる。 (適切な筆記) 文のつながりや構成を考えた文章を書くことができる。		(言語についての知識) 「書くこと」に用いられている語句や、『仮定法』、『時と条件の副詞節』などの文法事項を知っている。 (文化についての理解) 人々のものの見方や考え方の違いについて理解している。

### 3 指導計画

過程	時間	ねらい( )と学習活動 【見通し】	支援及び指導上の留意点	評価項目 【評価規準との関連】 B:おおむね満足 A:十分満足 (評価方法)
	1~4	Part 1-4の内容を把握する。 ・単語などを発音し、意味を確認する。  ・本文の内容に関して、英語で書かれた質問に対し英語で書いて答えるQ&Aを行う。 ・本文の部分訳を行う。  ・本文の音読をする。	・クラス全体でCD(単語などの発音が録音されたもの)のあとについて発音したり、フラッシュカードを見ながら一人ずつ発音したりするなど、様々な方法で発音の練習をすることで、正しいリズムやイントネーションを習得でき、辞書を利用して正確な意味を理解できるようにする。  ・机間指導しながら必要に応じて内容的に重要な文の和訳を口頭で示すなどし、本文の内容を読み取れるようにする。  ・教科書を見ながらCD(本文の朗読が録音されたもの)のあとについて音読をしたり、教科書を見ないでCDのあとについて音読をしたりするなど、様々な方法で音読の練習をすることで、正しいリズムやイントネーションを習得でき、本文の内容を理解できるようにする。	・単語の発音をし意味が確認できる。【アの、イの】 B:意味を確認し、リズムやイントネーションに注意しながら発音できる。 A:積極的に辞書を用いて意味を確認し、正しいリズムやイントネーションで発音できる。 (観察)  ・内容に関する質問に対しての回答及び部分訳ができる。【アの、ウの】 B:読んだ内容について概要や要点を把握することができる。 A:辞書などを活用し、書かれた内容について正しく読み取ることができる。 (観察)  ・適切に音読できる。【イの】 B:正しいリズムやイントネーションなどを用いて音読できる。 A:正しいリズムやイントネーションなどを用いて、文章の意味などを考えて適切に音読できる。 (観察)
導入の過程	5	教科書の重要文を応用して多様な表現ができることに気付く。 ・教科書の中からダイアログとして活用できる重要な例文を取り上げ、ワークシートに記入する。 ・文法を正確に理解する。 ・表現の核となる部分と語句を改変できる部分とに構造を分析し、ワークシートに記入する。 【見通し1】	・教科書の重要な文を取り上げられない生徒に対しては、机間指導を通して重要な文法項目を口頭で説明したり、教科書の該当部分を指し示すなどし、文を取り上げやすくする。  ・ワークシートを用いて、例として取り上げた重要な例文の一つを実際に構造を分析して見せる。 ・机間指導を通し、分析するのに欠かせない文法的な知識を必要に応じて口頭で与えていく。	・重要な例文を取り上げる。【ウの】 B:2~3の例文を取り上げることができる。 A:4つ以上取り上げることができる。 (ワークシート)  ・構造を分析する。【イの】 B:ほぼ正しく分析できる。 A:正しく分析できる。 (ワークシート)
応用の過程	6	教科書の重要文をコミュニケーションの場面に活用する手がかりをつかむ。 ・分析した例文を実際に様々に変えてたくさんの文を作成する。 ・ダイアログの中心となる簡単な応答例を作成し、ワークシートに記入する。 【見通し2】	・机間指導を通し、文を改変させるときに用いることができるような語句などを、板書や口頭で示す。  ・問いかけとそれに対するの答という形に留意し適切な疑問文が作れるように、板書や口頭で例を示す。	・文を作成する。【アの、エの】 B:2~3の文を作成することができる。 A:4つ以上作成することができる。 (ワークシート)  ・簡単な応答例を作成する。【アの、イの、エの】 B:2~3の応答例を作成できる。 A:4つ以上作成できる。 (ワークシート)
	7~8	教科書の重要文をコミュニケーションの場面に活用する能力が身に付き、実生活の会話でも応用しようとする。	・机間指導を通し、応答例を膨らませてダイアログを作り上げるのに用いることができるような語句や表現を、板書や	・応答例を生かした会話ができる。【アの、イの】 B:うまく言えないことがあっても別の語句や表現で言い換えたり、説明して伝えた

発展の過程	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 応答例を生かしながら実際に会話をする。</li> <li>・ 実生活での使用場面を意識したダイアログを作成しワークシート に記入する。</li> </ul>	口頭で示す。	<ul style="list-style-type: none"> <li>りするなどの工夫をして、応答例を生かして話すことができる。</li> <li>A:相手の発話に対して適切に応答しながら、応答例を生かして伝えたい情報や考えなどを正確に話すことができる。 (ワークシート )</li> <li>・ ダイアログが作成できる。【イの ・ 、エの 】</li> <li>B:文のつながりや構成を考え、使用場面を意識したダイアログを正確な英文を用いて1つ作成できる。</li> <li>A:文のつながりや構成を考え、使用場面を意識したダイアログを正確な英文を用いて2つ以上作成できる。 (ワークシート )</li> <li>・ ダイアログを発表する。【イの ・ 】</li> <li>B:ほぼ正確なリズムやイントネーションなどを用いて発表できる。</li> <li>A:文章の意味などを考えて正しいリズムやイントネーションなどを用いて発表できる。 (観察)</li> <li>・ 発表を聞く。【ウの ・ 】</li> <li>B:聞いた内容について大まかに理解し楽しんでいる。</li> <li>A:聞いた内容について正確に理解し楽しんでいる。 (観察)</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 作成したダイアログをいくつかのペアは発表し、ほかの生徒は聞く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 発表するペアに対しては、声の大きさや、発表する速さ、抑揚などによる表現の豊かさなどに留意させる。</li> <li>・ 発表を聞く生徒に対しては、自分の作った応答例やダイアログに用いられている文法項目やその基になる教科書の重要文を思い出し、それが発表されているダイアログにも含まれているか注意するようにさせる。</li> </ul>	【見通し3】

## 研究の結果と考察

### 1 導入の過程において、教科書の中からダイアログとして活用できる重要な例文を取り上げ、例文の文法を正確に理解し、表現の核となる部分とそれ以外の部分とに構造を分析してワークシートにまとめる活動を行うことは、例文をただ暗記するだけでなく、応用して多様な表現ができることに気付くことに有効であったか

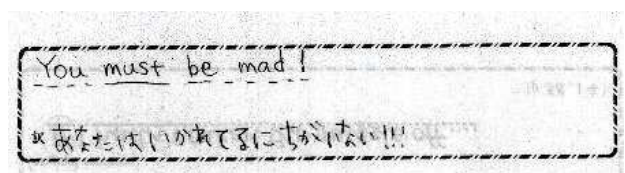
まず、教科書の本文を朗読してあるCDを聴きながら、重要な例文と思われるものを取り上げ、ワークシート に書き写すようにした。その後、取り上げた例文の構造を分析したり、和訳したりする活動を行った。

例文を取り上げることは、比較的容易にできるペアも見られた一方で、苦勞するペアも見られた。「どのような例文を取り上げたらいいのだろうか？」とお互いに尋ね合っていたペアに対しては、たくさん取り上げることができたほかのペアの例文を教師が紹介し、例文を取り上げた理由をそのペアに尋ねるようにした。そうすることにより、「ここを変えれば別の文が作れるね。」とか、「この文とこの文は同じ語句が使われている部分がある。」など、重要な例文を取り上げる上での大切なことを理解している発言が聞かれるようになった。全てのペアが2つ以上の例文を取り上げ、構造を分析し、和訳することができた。4つ以上の例文を取り上げることができたペアもいくつか見

られた。ほとんどのペアは、構造の分析や和訳が正しくでき、文法を理解できていた。自己評価カードには、「たくさんの文の作り方が分かるようになり、一人で文を作る時に参考になると思った。」といった感想が見られた。

A女は、当初はどの文を選んでよいのか分からない様子であったが、一緒にペアを組んでいる生徒から、助動詞を使えばいろいろな文が作れることを教えられ、「You must be mad!」など、助動詞“must”を含んだ例文をワークシート に記入した(資料1)。

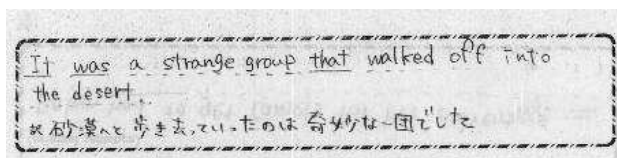
資料1 A女のワークシート



A女は自分ひとりでは困難であったようだが、同じく助動詞“must”を含む英文、例えば“ You stayed up so late last night that you must be sleepy now.”などを教師が例に挙げて示すと、教科書の中の“must”を含む英文の構造も分析することができ、さらにそれを用いて新たな表現を作成することに気付いたようで、自己評価カードには「応用していろいろな文を作るのに役立つ。」とか「文の構造を覚えるのに役立つ。」などと記入していた。

B女は、いくつもの例文を素早く選び出し構造を分析した。その中には、仮定法を含むもの( If I hadn't taken the muzzle off,... など)、間接話法を含むもの( She asked Eddie if he would continue to be her guide. )、強調構文を含むものなど、複雑な構文を使用した英文が多かった(資料2)。

#### 資料2 B女の取り上げた例文の例



自己評価カードに「書きかえができる文や、公式にあてはめて作る文、大切な文法が含まれている文などが重要だと思った。」と記入していたことから分かるように、重要な例文を選ぶ自分なりの基準を明確にもっていたようで、特に、応用して新たな英文を作りやすいかどうかを重視していたことが伺えた。分析した例文を用いて、次にどんな応答例を作るかを教師が尋ねると、早くから場面設定に思いを巡らせていた旨を答え、自己評価カードに「季節について話す場面」「歌について話す場面」「好きなものを尋ねる場面」「動物園に行く場面」など多くのアイデアを記した。

以上のことから、導入の過程において、教科書の中から重要な例文を取り上げ、文法を正確に理解し構造を分析することは、応用して多様な表現ができることに気付くことに有効であったと考える。

#### 2 応用の過程において、分析した例文を様々に変えてたくさんの文を作り、さらにダイアログの中心となる簡単な応答例を作成してワークシートにまとめる活動を行うことは、例文をコミュニケーションの場面に活用する手がかりをつかむことに有効であったか

導入の過程ではそれぞれのペアが重要な例文を取り上げ、構造を分析しワークシートにまとめたが、簡単な応答例を作成するのに先立ち、ほかのペアはどんな例文を取り上げ、どのように分析したかが分かるように、ワークシートを回収し、集約したものをプリントにして配付した。応用の過程では、自分たちのペアが取り上げた例文のみならずほかのペアが取り上げた例文も利用するよ

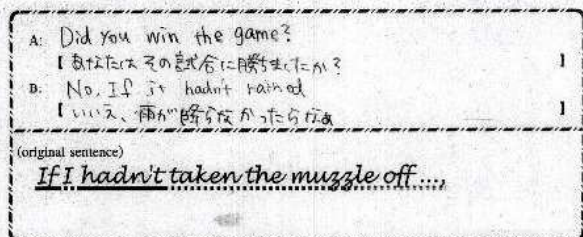
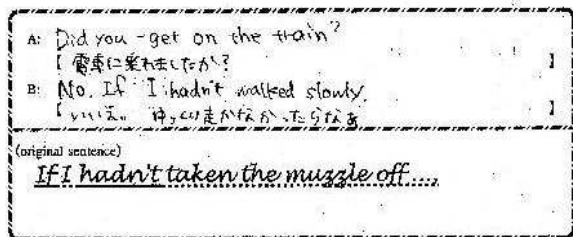
うに呼びかけ、なるべく多くの応答例が作成できるようにした。

応答例を作成する際、「どういう場面で作成してもいいですか?」という質問が多くのペアからあり、応答例の作成に、例文の改変と使用場面の設定の両方が重要であることを多くの生徒が理解したようだった。ほぼ4分の3のペアが2つ以上の応答例を作成した。4つ以上の応答例を作成したペアもいくつか見られた。作成された応答例の使用場面としては、授業、買い物、部活動などが多かったが、中には裁判の判決の場面を設定するペアもあり、多様な発想が見られた。そして、大半のペアは、分析した文構造を正しく理解し、文法的に正確な知識を用いて英文を作成していた。

A女は、導入の過程では“must”などの助動詞に着目して例文を選んだので、応答例を作成する際にも、助動詞を含んだ英文を作り始めた。自分たちのペアの分析をもとに語句を改変させて、“You must be hungry.”という英文を作ることができた。しかし、それを応答例として成り立たせることには試行錯誤していた。そこで、どんなときに使う文にするかを考えるように言ったところ、やがてペアで相談を始め、話がうまくつながるように気をつけて、使用場面を「友達同士でご飯を食べに行く場面」とすることになった。「相手が『お腹が空いているに違いない。』と思うには、相手からどんなことを聞いたからだと思う?」と問うと、「何も食べてないってことにしよう。」と答え“I didn't have anything this morning.”という英文を作った。その応答例をさらにどのようなダイアログに膨らませていくかについてはこの過程では具体的な考えは浮かばない様子ではあったが、「自然な流れにしたい。」とか「応答例を中心に肉付けしていく。」という構想をワークシートに記した。

B女は、導入の過程でたくさんの例文を取り上げていて、多くの場面設定を考えてあったので、応答例も数多く作成した。まずは、自分たちのペアで取り上げた例文をもとに応答例を複数作成していた。さらに、ほかのペアが取り上げたものも利用するように教師が言うと次頁のような応答例を作成した(資料3)。

資料3 B女の作成した応答例



応答例を作成するときに工夫したこととして「会話っぽくナチュラルになるようにした。戯曲を書くようなイメージで。」と自己評価カードに記し、使用場面を意識していることが伺えた。応答例をどのようなダイアログへと膨らませていくかについても、「地域の人との交流の場面」とか「お店などでの店員さんとのやりとり」などをペアで相談して想定した。

以上のことから、応用の過程において、例文からダイアログの中心となる簡単な応答例を作成することは、例文をコミュニケーションの場面に活用する手がかりをつかむことに有効であったと考える。

3 発展の過程において、作成した応答例を生かしながら会話をし、ダイアログをより自然な展開に膨らませてワークシートにまとめ、発表をする活動を行うことは、実生活での使用場面を意識して英語でコミュニケーションできる能力を育てることに有効であったか

発展の過程では、ダイアログのストーリーを考える手助けとして、数コマにわたるコミックをセリフ部分を白抜きにしたものを配付し、自由に場面設定を考え、応用の過程で作成した応答例を生かしてダイアログを考えるようにした。

ダイアログの作成が始まると、どのような場面を設定するかについてそれぞれのペアで活発に意見を交換し合っていた。アイデアは多く浮かぶものの、ストーリーとして話の筋が通ったものにするには苦労するペアもいた。「どこに応答例を組み入れたらいいんだろう？」などの声もあが

ったが、応答例の使用場面を踏まえて発想することを促すと、作業は上手く進んでいったようであった。まず自分たちの応答例が「ダイアログの中のどのシーンで使えるかを考えてからその前後の話を肉付けしていく」ことに気がつけた旨が自己評価カードにも記されていた。ペア全体の9割が最後までストーリーが完結しているダイアログを作成することができた。また、半数のペアがストーリーの展開に面白みをもたせることができたといった感想を記している。ダイアログの作成は、多くのペアにとって作業としては大変であったようで、「大変だ。」「いい英文が思い付かない。」と発言しながら行っていたが、教師がペア同士で実際に会話をしているような気持ちで作業を行うように言うと順調に進んでいくようになったペアも見られた。「皆で意見を出し合うのも考えの交換ができて良いと思った。」「最初はよく分からなかったけど、皆で意見を交換し合ったりできてよかった。」「自分たちで自由に文が作れるのは楽しいと思った。」などの感想が自己評価カード

に記され、応答例をもとにペアで会話をしながらダイアログを作成したり、成果を発表したりする活動がこのような感想に結び付いたと思われる。発表では、多くのペアが自作のダイアログを覚えてプリントを見ないで演じようとしていた。そのための練習の際に、何度も英文を暗唱していたことは、教科書の重要文の定着にも有効であったと思われる。

A女は、導入、応用の両過程で助動詞に着目してきたので、発展の過程でも助動詞“must”を用いた応答例を生かしてダイアログを作成したようで、「ストーリーがわかるようになるように頑張った。」「“must”などの助動詞を使うように心掛けた。」と自己評価カードに記している。ただし、助動詞のみで例文を改変するには、“You must be ……”や“He must be ……”、“It must be ……”といった文ばかりになりがちで発展性が乏しくなってしまうことが難点であるが、本人もこのことには気付いており、「英語に変えるのが難しいです。変換ができないのでやっぱりもっと英語力をつけないと。」とも述べていた。しかしながら、「いろいろ考えて楽しかった。」と述べ、作成したダイアログを今後どんな場面で活用できるかをペアで話し合う姿も見られた。発表では、プリントを見ながら読み上げることもあったが、自分で作ったダイアログを楽しんで演じているよ

うだった。

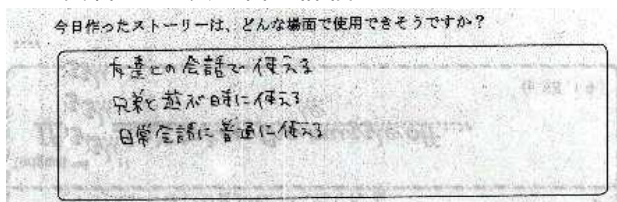
B女は、応用の過程で作成した多くの応答例の中から“ If ... had ..... ”という仮定法を用いたものを選び、以下のダイアログを作成した(資料4)。

#### 資料4 B女のダイアログ

- A: “ Let's play baseball. I'll bring the tool.  
Please wait. Here you are. Let's go to the park. ”
- B: “ I can't! Because I am a girl. ”
- A: “ Don't worry! You can play baseball. Damn!  
If she hadn't been a girl. ”

使用場面を意識して応答例を作っていたことでダイアログの作成も容易だったようで、「場面を考えるのは面白い。」と発言するなど楽しんで作業を行っていた。作成したダイアログを今後どのような場面で使用できるかについても積極的に考えて自己評価カード にまとめていた(資料5)。

#### 資料5 B女の自己評価カード



皆の前での発表では、男の子が女の子を野球に誘うという場面が聞いている生徒に伝わるように、時に身振り手振りを交じえながら大きな声でダイアログを演じていた。聞いていたほかの生徒は、ダイアログのどの場面に教科書の重要文から改変した文が使われているかに特に興味をもっていたようで、教科書と見くらべながら熱心に聞き入っていた。

以上のことから、発展の過程において、応答例を生かして会話をし、ダイアログを膨らませ発表をする活動を行うことは、使用場面を意識して英語でコミュニケーションできる能力を育てることに有効であったと考える。

#### 研究のまとめと今後の課題

実生活での使用場面を意識してコミュニケーションできる能力を育成するため、教科書の重

要文の構造を分析し、コミュニケーションの場面を意識しながら語句を改変してダイアログを作成する活動をペアワークによって取り入れたことが、生徒のコミュニケーションへの意欲を喚起し主体的に文を作成する姿勢に結び付き、有効であったと考える。

ダイアログの作成活動をする上で教科書の重要文を活用させたが、どの文が重要であるかをとらえるのに苦労した生徒が何人か見受けられた。これは日頃の授業や家庭学習の中で、何が重要であるかを意識していないことに起因すると考えるので、重要文のノート整理の仕方などを、今後個別支援していきたい。

#### <参考文献>

- ・大杉 正明 著 『決定版!NHKラジオ英会話キーフレーズ集』 日本放送出版協会(1996)
- ・大杉 正明 著 『このひと言で伝わる!NHKラジオ英会話一発表現300』 日本放送出版協会(1997)
- ・大杉 正明 著 『Hopes, love and dreams in New York NHK CD Book NHKラジオ英会話 ストーリーブック』 日本放送出版協会 (1998)



